

現在の御茶ノ水駅



昭和30年代

現在のとちの木通り



昭和30年代



昭和20年代



現在の2号館屋上から見た
山の上ホテル

工化時報

第24号



Since 1938

本年は物質応用化学科創立70周年です

会長あいさつ



工化会会長 藤池 誠治

(昭和41年工業化学科卒)

工化会の事業に、諸先生はじめ、関係各位、学生諸君のご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、平成20年の節目にあたり世情を見渡せば、取り巻く環境は米国発進のサブプライムローンを始め、イラク、イラン、アフガン、北朝鮮問題等々、政界、経済界は困難な年明けとなりました。

又、資源国の急激な台頭による原材料高など、取り巻く状況は日本にとって明るい材料ではありません。資源の無い国として、今後益々英知を出して、この環境に立ち向かう意味では、化学に関わるニーズが必要不可欠な事となるでしょう。

昨年、平成19年7月に、アラブ首長国連邦の首都ドバイに経済視察旅行に参加してまいりましたが、その内の一個所で、ガスプロムというアラブ首長国連邦の国策会社を訪問してまいりました。東京電力に100%ガスを買っているガス会社です。その会談の席上、幹部の人の話の中に、「きっとこの10年以内に日本が新たな代替エネルギーを開発するであろう」と言っていました。石油産油国が、このまま石油に頼る豊かさがそう永く続くとは思っていないということです。

本年は、物質応用化学科として70周年を迎えます。およそ20,000名の卒業生を社会に送り出し、多くの諸先輩が各界で活躍しています。大変意義多い行事になると確信しています。これを契機に、物質応用化学科の存在が高く評価されることと共に、本校においても益々、より高度な専門教育が要求され、その人財が社会に広く、大きく関わることが期待されます。

又、昨年は就職セミナーを開催し、諸先輩の企業との交流会を行いました。卒業生先輩諸兄姉の活躍が、企業の発展を通じて、社会の貢献に大きく関わっているという認識の場であり、学生諸君の今後活躍するであろう企業選択の場として、企業を知る、仕事を知る上で、益々活況になることを期待し、今後も続けていきたいと存じます。

最後にあたり、関係各位のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。工化時報24号の会長のあいさつとさせていただきます。

教室主任あいさつ



物質応用化学科
教室主任 滝戸 俊夫

(昭和50年博士課程修了)

一日が犬の散歩からはじまる。どんな陽気であろうとお構いなく散歩をせがまれる。同じ道を通り、同じ角を曲がり、ほぼ同じ電柱で用を足す。彼の頭脳は変化を求めず、マンネリ化した散歩をむしろ楽しんでるようにも見える。少し甚振ってやろうと違う道に回り込んだりすると、後さき動かず、ただこちらを見るばかりで情けない。しかし、これが大学となると、世の流れに甚振られたからと言って動けないとは言っていない。今、大学は「少子化」による18歳人口の減少と詰め込み教育や偏差値をなくし、考える力を養うことを意図した「ゆとり教育」の失敗といった2つの波にもまれている。これらの波からは「学力低下」の渦が生まれ、大学経営・大学教育に大打撃を与えている。多くの大学がより良い入学生を確保しようと組織改革に凌ぎを削っているが、受験生から理解される魅力ある組織改革が実現できない大学は徐々に渦に飲み込まれて消えてゆく。

大学の問題はそのまま学科に当てはまる。学科には学生の学力向上と卒業時の人間保証の責務がある。高校生が化学に何を求め、化学を選ぶことと将来の自分をどのように位置付けているのかをしっかりと調査・分析し、魅力ある学科を構築することが入学生のモチベーションを維持させるものと考えます。

大学の一方の柱である研究も、「学力低下」の渦に大きく影響される。しかし社会貢献を使命としている研究がないがしろになってはならない。このため学科は研究分野を拡大し、社会貢献度を増強させるため教員個々を研究ユニットとして位置づけた。この改革を期に、卒業生との産学連携のきずなもより強固にして、より多くの新しい研究の活性化に拍車をかけ使命を全うしなければならない。

今が確実に変革していかなければならないその時と理解している。

短期大学部 文部科学省特色 GP の採択



短期大学部応用化学科
学科長 栗原 清文
昭和60年修士課程修了

実社会で貢献できる有能な技術者を育成する日本大学短期大学部（船橋校舎）の取組「工学（技術者）基礎教育の充実と学習支援」が、文部科学省の平成19年度「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）に採択されました。特色GPは、大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことにより、国公立大学を通じ、教育改善の取組について、各大学及び教員のインセンティブになるとともに、他大学の取組の参考になり、高等教育の活性化が促進されることを目的とするもの（文部科学省のホームページより抜粋）です。

本プログラムはファブリック（織物）型学習支援プログラムと称し、織物の横糸に当たるのはエンジニアを育成する教養教育と専門教育、「ものづくり」などの体験型学習（実験・演習）、縦糸は学習意欲と習熟度を高めるための「年間4学期制（前学期・後学期・夏季・春季）」による短期集中・反復型の教育方法、つまり教育内容の柱が横糸、学習機会の工夫が縦糸となって、各要素がプログラム中に有機的に配置されています。

そこで、このプログラムを具体化するために、我々は次の3本柱を設定しています。

1. エンジニア基礎教育の充実

専門科目の理解のためには、その基礎となる教育科目を確実にマスターしなければなりません。そこで、基礎的な教育科目を「導入」、「基礎」、「総合」の3ステップとしました。「導入教育科目」は、補習型の演習授業です。専門科目の理解が困難な学生に向けて、数学・化学・物理に導入教育科目を設置しました。「基礎教育科目」は、従来から設置していた科目をさらに充実させ、特に、礎微分積分、線形代数、数理統計といった数学系の教科を増設し、専門科目の理解につなげます。「総合教育科目」は、人文系・社会系という枠組みの融合を図り、4つの分野、「インセンティブ」、「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「言語とコミュニケーション」から構成されています。さらに基礎か

ら専門への「橋渡し」となるステップとしての教科を新設しました。一つは、「スタディ・スキルズ」であり、技術文書の書き方、資料の収集法、コンピュータの操作法、実験のノウハウなど、学習スキルのガイダンスです。二つ目は、「ガイダンスセメスター」です。文字通りに専門科目へのガイダンスを初年度前期で学ぶための教科であり、応用化学科ならば、基礎無機化学、基礎有機化学、基礎物理化学、基礎生命科学の4科目がこれに当たります。

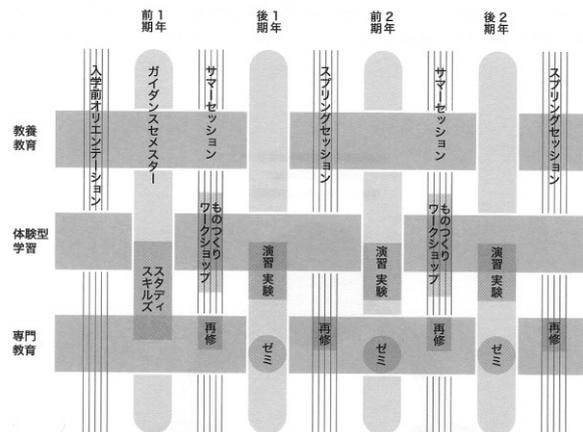
2. エンジニア基礎教育の学習支援

さまざまな学生の個性に応じて選択でき、反復できる学習機会を提供します。年間4学期制によって、学期完結型・短期集中型として、再履修も正課カリキュラムに組み込みました。さらに、入学前オリエンテーションによる事前学習も取り入れ、高校卒業時の学習到達度に応じた支援プログラムを導入しました。

3. 学習意欲を啓発する教育プログラム

「知識伝達型」から「体験学習型」教育への転換を目指し体験的な科目を充実させ、繰り返し学習意欲を啓発します。応用化学科でも実験・演習を通して、多彩な専門教員による少人数教育を実施して、実践力、発想力、コミュニケーション力の育成を目指します。

以上のように本ファブリック（織物）型学習支援プログラムでは、教育内容の柱が横糸に、学習機会の工夫が縦糸となり、学生の個性を柔らかく包みます。その結果、学生の学習意欲を啓発することで、基礎から専門教育への着実なステップアップを促すとともに、体験型学習の機会を広げることで、「思考・発想・提案の力」のある人材を養成していきます。



短期大学部 特色 GP 概念図(ファブリック型)

就職セミナーや就職状況について



応化就職指導委員会
委員長 柄木 勝己
昭和 44 年修士課程修了

○就職セミナー

最近、電車内の宣伝広告を眺めていると、転職応援フォーラム、キャリア採用フェア開催の記事が目につく。団塊の世代が定年を向え、即戦力になる人材を企業は欲しがっているようである。特に大手の会社が積極的に人材確保に動いている現状では、中小企業の方々のご苦勞もいかにばかりかと拝察される。大学でも、就職(出口)は入試(入口)と共に重要な業務となっている。

日本大学では、大学本部及び理工学部が就職セミナーを開催している。本部主催のセミナーは 2 月 13 日に東京国際フォーラムで開催された「日本大学合同企業研究会・就職セミナー」と 10 月に開催予定の「日本大学合同企業研究会・未内定学生のためのフォローアップセミナー」である。参加企業数は各々 200 社と 60 社程度である。理工学部では、5, 6 年前から「理工学部業界セミナー」を開催している。今年度は 12 月と 2 月に分かれて、計 6 日間開催された。時間割に割り当てられた約 300 社の人事担当者が、教室で独自に行う授業方式であった。物質応用化学科から推薦された参加企業は次の通りである。

アキレス、イチカワ、小野薬品工業、環境管理センター、大日本印刷、凸版印刷、日本航空電子工業、山崎製パン、関東化学、興国インテック、コスモエンジニアリング、塩野義製薬、昭和高分子、昭和産業、ショウワグローブ、奈良器械製作所、日揮、横浜ゴム、吉野石膏、ロンシール工業

物質応用化学科では、昨年度に引き続き 3 月 29 日に「第 2 回物質応用化学科就職セミナー」(物質応用化学科主催、工化会後援)を開催する。各研究室から推薦された参加企業 41 社は次の通りである。

アキレス、旭興産グループ、出光ユニテック、岩井機械工業、栄和加工、エヌ・ティ・ティ・システム開発、香栄化学、高圧ガス工業、ザ・インクテック、三洋貿易、J-ケミカル、篠田ゴム、ショウワグローブ、昭和興産、新興プランテック、住友大阪セメント、スルーボンド、西部ポリマ化成、タジマ、田中貴金属、T&K TOKA、東罐興業、東光、巴商会、日弘ビックス、ニッサン石鹸、日曹エンジニアリング、日本ケミカルズ販売、日本バイリーン、日本プライブリコ、日本ミリポア、ノザワ、パウダーテック、フジシール、ホーライ、松田産業、三星化学工業、ロンシール、ワールドインテック

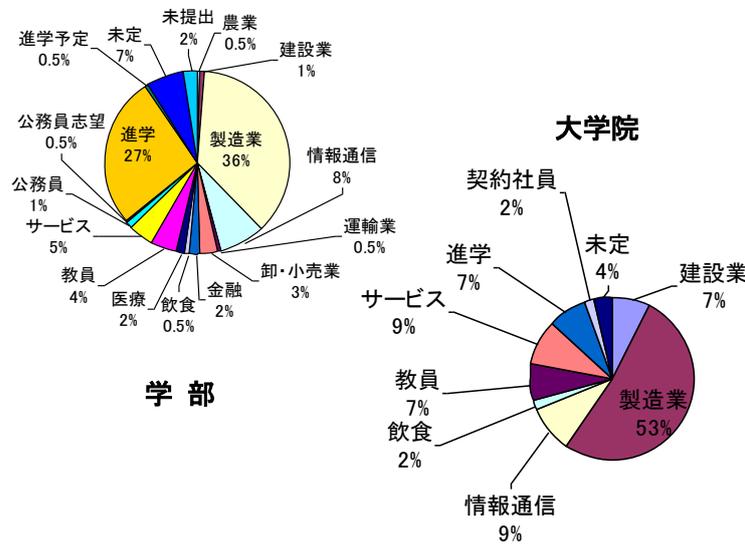
就職業務の学科窓口は進路指導委員会であり、現構成員は委

員4名と事務局の助手(事務)2名である。就職専従者がいない代わりに、各教員が積極的にサポートする体制をとっている。企業と直接接する教員が就職情報の発信源となりつつあり、進路指導委員会はそれらの情報をまとめる形をとっている。このような情報をデータベース化すれば、上記の転職応援等にも利用可能となり、工化会会員の皆様方にも有用な情報が発信できるかもしれません。(実際にはかなり難しいと思うが)

○就職状況

本年度も、就職状況は学生にとって好調であるといえる。特に、大手化学会社の就職決定者数が増加し、また、卒業生の数の多い企業への就職決定者数も増加している。

企業は化学の基礎知識や語学力、情報処理能力だけでなく、入社希望の企業に対する考え方や人間性などを選考の対象にしており、また社会が大学院修了者を求めている。就職内定者の内訳は学科の性質上、化学工業関連の企業が多く、製造業が40%(大学院だけでは55%)を占め、次いで情報通信8%、サービス5%となっている。大学院への進学率は30%、その他教員・公務員が5%を占めている。いずれにしても就職決定率は、男女の区別なく就職希望者のほぼ100%に達している。



主な就職先

【製造業】三井化学、大日本印刷、共同印刷、積水化成工業、ヤクルト本社、昭和化学工業、ペンテック、日産化学工業、東洋紡績、日本全薬工業、アイカ工業、日揮、森永乳業、中外製薬工業、吉野石膏、ロンシール、横浜ゴム、東京応化工業

【情報通信業】NTTアドバンステクノロジー、富士通エフ・アイ・ピー

【教育】日本大学理工学部助手、高等学校教員

【公務員】茨城県警察、埼玉県警察

創設 70 周年記念祝賀会へのお誘い



創設 70 周年記念会
実行委員会委員長
澤口 孝志
(昭和 51 年修士課程修了)

工業化学科（現在の物質応用化学科）は 1938 年に創設され 2008 年に 70 周年を迎え、これと同時に、卒業生の会である工化会（理工学部校友会工業化学部会）も 70 周年の節目になります。既にご案内のように、この大きな節目にあたり、工化会と物質応用化学科の共催で創設 70 周年記念会が設立され、記念事業を行なっております。

創設以来、学舎を卒業されたおよそ 20,000 名の会員の多くの方々が各界で活躍されています。また会員の方々のご協力によって工化会と学科との緊密な連携は維持されています。この 70 周年記念会事業の目的は、会員の方々のご活躍の程を、また学科と工化会との絆を改めて確認するための機会をつくることにあります*。

*具体的には記念祝賀会の実施、記念誌発行そして記念基金の設立の 3 つの事業です。

記念祝賀会は次の要領で開催されます。

日時：平成 20 年 6 月 7 日（土） 午後 5 時開宴

会場：アルカディア市ヶ谷 富士の間（3 階）

東京都千代田区九段北 4-2-25

（JR・東京メトロ・都営地下鉄市ヶ谷駅から徒歩 2 分）

会費：15,000 円（記念誌および記念基金 1 口を含む）

出欠：締切は先ず平成 20 年 4 月 30 日



記念祝賀会当日の目玉の一つとして七宝焼き体験コーナーを予定しています。

「七宝焼き」(写真参照)は物質応用化学科の名物出し物として学内外のイベント(オープンキャンパスやふなばし市民祭りなど)で十数年間行われています。学科が中心となり、教員(教室・工化会)が補佐する学科内研究サークルとして工業化学科の伝統が継承されています。金属プレート上に釉薬を載せて焼くだけで、手軽にオリジナル七宝焼きが作れるので高校生やご父母から大変多くの好評を得ています。当日は七宝焼き体験コーナーに足を運んでいただき、70周年記念オリジナル七宝焼きの製作などを是非体験してみてください。

また、会員の皆様に最近の物質応用化学科を知っていただくために、記念祝賀会会場ロビーに物質応用化学科の教育・研究・産学共同研究状況等の紹介パネルの設置を予定しています。パネルを見ながら卒業当時と変わらない物質応用化学科(工業化学科)や時代の流れに乗って変革された物質応用化学科について、旧友の皆様と話に花を咲かせていただければと思います。同時に、産学共同研究等の相談・申込等も受付ける予定です。その他、当日イベントでの希望等がありましたらお気軽にお声掛けください。可能な限り検討させていただきます。

70周年記念会では「70周年記念誌」を発行いたします。この記念誌の内容は主に最近20年間の物質応用化学科の歩みを写真中心に見やすく編集されています。また記念誌は、記念祝賀会に参加された方および欠席ながら御寄付^{*1}をいただいた方に記念祝賀会終了後に記念祝賀会当日の様子を含めて作成し、50周年記念祝賀会時に発行された50周年記念誌のCD版と日本大学歌集CD版^{*2}とともに、郵送予定です。

*1 「工化会の運営への寄付」と「学生および所属研究室への資金的支援」を目的とする；

- ・1口5,000円(できるだけ2口以上)
- ・期間：平成20年9月30日まで

*2 現在、本会実行委員の皆様が発案により物質応用化学科(2号館)では、2007年6月より毎日12:00にCD中の「日本大学校歌」、「水の覇者日大」、「若きエンジニア」の3曲が3回館内BGMとして流れます。

なお本会の趣旨の詳細は、お手元の「日本大学理工学部物質応用化学科創設70周年記念会 趣意書」を御覧願います。

問い合わせ先

物質応用化学科創設70周年記念会事務局

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8-14

日本大学理工学部物質応用化学科内

TEL: 03-3259-0827, FAX: 03-3293-7572

E-mail: 70info@chem.cst.nihon-u.ac.jp

2号館での思い出



磯崎 昭徳
(昭和37年修士課程修了)

物質応用化学科(工業化学科)に奉職してから、早いもので43年余りとなりました。微力ながら教育と研究に携わり、平成20年3月で定年退職を迎えられることは、教員各位ならびに多くの卒業生(特に分析化学研究室)のご支援があればこそで、深く感謝申し上げます。2号館2階222号室の片隅で、東工大から赴任された内海 諭 先生のご指導のもと無機分析化学の研究が始まりました。

その後、環境汚染に関連する微量金属測定法の開発などを中心に研究してまいりました。一時期、味覚が減退し亜鉛製剤の服用が必要となり、体内の微量元素の必須性と有害性を改めて認識しました。最近では、メタロニクス(生体金属機能科学)の研究が注目されており、微量成分の計測技術の開発は益々重要視されると考えます。

これからは非常勤講師として、環境化学などの講義がありますが、短躯弱体な身を支えていただいた櫻川昭雄 教授、森田孝節 准教授、吉川賢治 助手に重ねて御礼申し上げます。

PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 本社・工場 〒348-8585
埼玉県羽生市小松台1-603-29 | <input type="checkbox"/> 東日本支店 〒113-0033
東京都文京区本郷3-6-9 エルデ本郷館4F
TEL 03-5840-5531 FAX 03-5840-5541 |
| <input type="checkbox"/> 総務・経理
TEL 048-561-5221 FAX 048-561-5229 | <input type="checkbox"/> 西日本支店 〒632-0011
大阪府大阪市淀川区西中島4-3-8 新大阪阪神ビル10F
TEL 06-6307-2727 FAX 06-6307-2748 |
| <input type="checkbox"/> 生産管理・購買
TEL 048-561-5222 FAX 048-561-5229 | <input type="checkbox"/> 北陸支店 (2007年3月開設予定)
福井県福井市日之出1-29-1 |
| <input type="checkbox"/> 技術開発
TEL 048-561-5225 FAX 048-561-5228 | <input type="checkbox"/> VINA Showa co.,Ltd.
ベトナム/ホーチミン市 |
| <input type="checkbox"/> 品質管理
TEL 048-561-5226 FAX 048-561-5496 | |

昭和53年卒業 代表取締役社長 池本 俊一

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル



株式会社 **三栄興業**

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎 3-302

60年卒 **鈴木 義弘**

TEL 048-955-1632 E-mail : sanei-k@misato-net.com

ホームページ : <http://www.misato-net.com/3ak/>

退任のご挨拶



矢野 彰一郎
(昭和45年博士課程修了)

私は、平成9年に日本大学理工学部にて採用していただき、現在まで11年間お世話になりましたが、本年3月31日をもって退職することとなりました。

私は、昭和45年3月に本学大学院博士課程を修了後、通産省工業技術院製品科学研究所(後に物質工学工業技術研究所へ名称変更、現産業技術総合研究所)に研究職として採用され、約27年間在職致しました。辞める前の年に研究室長の上に国際研究協力室長の併任がかかり、2足のわらじを履きながら四苦八苦しておりました。そこへ当時の学科主任であった真下先生からお誘いがあり、二つ返事でお世話になることにしました。それから11年間とはいっても、けっこう密度の高い11年間でした。平成11年には、右も左もわからないのに無謀にも学科主任を引き受けてしまい、学科のみならず学部にもご迷惑をおかけしたのではないかと思います。研究の面では、NEDOの提案公募、科研費、理工特別推進、ハイテクリサーチセンター整備事業などに参加させていただき、大変充実した時間を送らせていただきました。学生時代10年間、教員として11年間本当にお世話になり、ありがとうございました。

物質応用化学科の益々の発展をお祈りし、私の退任の挨拶とさせていただきます。

「70周年に寄せて」原稿募集

工化会と物質応用化学科の共催で行われる70周年記念事業で記念誌を発行いたしますが、その中で卒業生の方々から「70周年に寄せて」の原稿を募集しております。期間が短くて恐縮ですが、ぜひともご投稿のほどよろしくお願いいたします。また、大変心苦しいのですが、紙面の関係上掲載できない場合があることをご了承下さい。

原稿締切：平成20年4月30日(水)必着

文字数：500字程度

投稿先：〒101-8308 千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部物質応用化学科 70周年記念誌編集委員会

平成19年度 新任紹介**西宮 伸幸 先生**
無機材料化学研究室 教授

大学を卒業してから33年たった2007年4月、駿河台に着任しました。学生の頃から馴染んでいた街ですので生活にもすぐ慣れ、100%全開で教育・研究にはげんでおります。石油ショックを契機に当時の通産省が主導した「サンシャイン計画」に初年度から参画したのが水素研究のスタートでしたが、その後、民間、国立大学と居場所を変えつつ現在に至るまで、水素貯蔵材料を探索し続けてきました。そして今、行動力に溢れる学生諸君と首都ならではの先端情報に恵まれ、成功要因は整いました。以下、十ヶ条の決意をもって奮闘することを誓います。

- (1) 学生を大事にします(既に十年以上の実践歴あり)。(2) 日本大学を好きになります(既に箱根などで熱狂しています)。(3) OBを大事にします。(4) ノーベル賞を狙います。(5) 学会活動に精を出し、恩返しします。(6) 対面コミュニケーションを重視し、情報を足で集めます。(7) 実験現場で率先垂範します。(8) 友人を大事にします。(9) 健康に留意します。(10) 単身赴任を解消します。

角田 雄亮 先生
資源利用化学研究室 助手

はじめまして、平成19年度より資源利用化学研究室で助手を務めます角田と申します。平成10年度に理工学部に入塾して以来、平成18年度の博士後期課程を修了するまでの9年間、物質応用化学科の諸先生方には大変お世話になりました。学生の頃から資源利用化学研究室に所属し、廃プラスチックを有効利用するための処理方法に関する研究を行っています。地球温暖化や石油資源の枯渇などが問題となっている昨今、一旦廃棄されたゴミも未利用資源として捉えてリサイクルすることは、循環型社会構築のために重要な課題となっています。研究を通して学生と共に切磋琢磨することで後進育成等、本学の発展に寄与したいと思っております。助手に着任してからまだ間もない若輩者ですが、微力ながら努力精進して参りますので、工化会会員の皆様にはご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

学生編集委員のページ

「学生による七宝焼きイベント」

「七宝焼き」とは、金属の下地の上に無機粉末をペースト状にした釉薬（ゆうやく）を乗せ、800℃程度の高温で加熱することで釉薬が熔融し、きれいな光沢のあるエナメル様の美しい色彩を示す装飾品です。古代中近東で生まれ、シルクロードを通して中国、日本へと伝わり、古くから日本人に親しまれてきました。このため、正倉院に黄金瑠璃細背十二稜鏡という七宝焼きが保存されていますし、日本の勲章（大勲位菊花大綬賞など）には七宝焼きが使われています。また、手軽にできるため、ご家庭で趣味として楽しまれている方も多いのが特徴です。

私たち物質応用化学科では広くモノづくりの化学について興味を持ってもらうことを目的として、各種イベントで七宝焼きの体験を行っています。たとえば、7月のオープンキャンパスおよび11月の学園祭で七宝焼き作成体験コーナーを行っています。そこでは高校生だけでなく、そのご父兄の方々も体験され好評を得ています。また、近年ではこの実績をもとに11年連続で船橋市主催のふなばし市民祭りにも参加し、親子から高齢者まで広い年齢層の方々に七宝焼きの楽しさ、モノづくりのおもしろさ、すばらしさを紹介しています。これら七宝焼きのイベントは、すべて学生主体となって実施しているため、これによって学年、研究室を越えた横のつながりが生まれています。

70周年記念式典では私たちが小規模ながらこの七宝焼き体験のイベントを会場内で行わせていただきます。ぜひ、式典で自分だけの七宝焼きを作成してみてください。



オープンキャンパスでの七宝焼きイベント



クラス会・同窓会の報告

高分子合成研究室卒業生の皆様

“平成20年度同友会開催と矢野彰一郎教授 最終講義のお知らせ”

高分子合成研究室は1972年に開設されてから2008年までにおよそ900名の卒業生を送り出しており、本年38期目の卒業研究生を迎えた。第6回目の総会は2007年11月24日(土)駿河台1号館会議室にて昭和49年卒業の津野岳彦氏からの講演もあり、例年に増して盛況であった。新たに研究室に配属が決まった3年生を加え、およそ90名とここ数年で最も多い参加人数であった。また、2007年度をもって定年退職される同友会会長の矢野彰一郎教授の最終講義は、2008年3月15日(土)日本大学理工学部駿河台校舎1号館6階CSTホールにて開催された。

本会は、豊富な人材ネットワークを学内外から気軽に活用できるサロン風産学連携拠点であり、研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室(澤口 sawaguti : -0819 ; 萩原 hagiwara : -0433 ; ****@chem.cst.nihon-u.ac.jp)にご一報を!

第7回同友会総会は2008年11月24日(土)日本大学理工学部1号館2階カフェテリアにて開催される。

(同友会役員 矢野彰一郎会長、津野岳彦、関口優紀および澤口孝志副会長、片桐正志幹事長、嶋原靖宏及び岡崎弥寿子会計、中村信男及び新国禎倅監査)



研究室開設期の面々，同友会懇親会での1ショット
(左から，昭和49年卒 澤口孝志，小林正男；昭和47年卒
高山正夫，津野岳彦；昭和48年卒 野村昭夫，関口優紀)

有機合成化学研究室同窓会「PS会」 第19回通常総会

PS会は日本大学理工学部物質応用化学科(旧工業化学科)有機合成化学研究室の昭和46年3月卒業生を第1期としていて、同研究室で卒業研究を行った学生で構成しています。卒業研究や修士・博士論文をご指導いただいた先生方を特別会員としている点に特徴があり、特に会則がない点もまた特徴です。各卒業年ごとの幹事と幹事の互選による役員が中心になって活動しています。

PS会は本来、隔年での総会開催を原則としていますが、研究室や特別会員の先生方の吉事に合わせた総会も開催しています。平成19年度は通常総会開催年に当たり、去る10月27日(土)に東京お茶の水ホテル聚楽(千代田区神田淡路町)にて第19回総会を開催しました。今回は特別会員の妹尾学先生の「喜寿」、特別会員・代表幹事の滝戸俊夫先生の「還暦」を機にお集まりいただき、季節外れの大嵐にも関わらず、多数の皆様にご参会いただき、和気藹々とした雰囲気の中で先生方とお目にかかることができ、また会員各位の近況報告もあって、貴重な時間を過ごすことができました。

平成19年3月の卒業生は第37期となり、第1期の卒業生とは親子ほどの年齢差があります。更にPS会には先達の同窓会に当たる「有機同窓会」の会長の炭田幸宏様、ならびに役員の方の丹野彰様、団野正博様にもご参加いただいでいて、世代を超えた集まりとなっています。



大先輩に囲まれて

挨拶される妹尾先生、
滝戸先生



平成19年度工化会事業報告

平成19年度工化会通常総会は、駿河台校舎1号館2階中会議室にて平成19年5月19日(土)午後4時より、役員、会員58名の出席を得て開催されました。開催に先立ち、昨年ご逝去された安江教授に対して黙禱をささげました。議長には藤池誠治会長を選出し、庶務、会計、会員および会報の各委員会より平成18年度事業報告および会計報告、ならびに平成19年度事業計画および会計予算案の審議を行い承認されました。平成19年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、講演会の開催(理工学部校友会後援)、オープンキャンパス'07、一日体験化学教室、学科就職セミナーの開催が提案され、これらすべてを後援することが承認されました。通常総会終了後、1号館2階カフェテリアにて、開始時間を10分ほど越えた午後5時15分から懇親会が開催されました(出席者57名)。澤口教室主任による学科内近況報告に続いて、安達前校友会会長から乾杯の発声をいただきました。この懇親会において、本年からの新しい試みがありました。それは、工化時報の発行を支えている学生記者にも参加してもらうことでした。学生の参加人数は4名でしたが、懇親会において新しい刺激になり、年の差を乗り越え大いに語り合いました。そして、和やかな雰囲気のうち閉会となりました。

平成17年度から工化会の予算は特別会計予算と経常会計予算の2種類を作成しております。平成19年度特別会計予算は952.4万円(内訳は前期繰越金787.0万円、校友会割戻金70.0万円、会費80.0万円、その他15.4万円)、平成19年度経常会計予算は176.1万円(内訳は前期繰越金35.1万円、校友会補助金37.0万円)、特別会計予算からの収入101万円を予定しています。また、経常会計予算の支出では会運営費A(庶務関係)71.0万円、会運営費B(会員関係)22.6万円、会運営費C(会報関係)82.0万円をみこんでいます。

平成19年度における会員諸氏による会費の納入状況(平成19年4月1日～平成20年1月24日)は、納入者数370名、納入金額は37万円となっています。納入者の中には複数年

度分の会費を納入された方や、寄付をお寄せいただいた方も多数おられますが、本号の会費納入者氏名一覧の掲載をもってこれらの方々への御礼に換えさせていただきます。

また、松本基金を工化会で管理することについて深津先生より報告がありました。松本賞は毎年成績上位2番の卒業生に銀杯を授与してきており、この費用は松本基金から支払われています。現在の残額は1,485,616円となっています。

物質応用化学科の最大のイベントである一日体験化学教室は7月21日に2,8号館を利用して学科教員総出で実施されました。この化学教室は高校生に実験を通して化学の楽しさを体験してもらうという学科行事で、最後は修了書が教授より生徒一人ひとりに手渡されます。今回は関東近県から130名を超える高校生が参加し、評判は上々でした。

昨年度から開始されました学科就職セミナーも好評でありまして、学科卒業生あるいは物質応用化学科の学生を積極的に採用したいという企業にお集まりいただく方式をとっております。本年は41社のご参加が得られ2月29日(金)に開催される予定です。

上記以外の平成19年度の工化会主催行事ならびに後援行事の概要を記載します。

- ① 平成19年4月21日(土) 14:00~16:00
第1回役員会(2号館245室)
- ② 5月19日(土) 16:00~19:00
通常総会・懇親会
- ③ 7月29日(日)
オープンキャンパス'07(船橋校舎)
- ④ 平成19年12月3日(月)講演会

以上 庶務委員会

静電容量型変位計・超音波リニアモータの輸入販売

Progress & Creativity

ピー アンド シー株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比須1丁目20番8号

(エビススバルビル5F)

電話 (03) 5793-1561 ファクシミリ (03) 5793-1562

昭和35年卒 代表取締役 **安達 昭郎**

会費納入者名簿 (平成20年2月1日現在)

昭和16年卒 和田守 哲治 天野 章 樫村 正久 津崎 統一 松田 稔	昭和24年卒 柿本 和男 相原 重夫 青池 嘉一 小倉 契秀	昭和25年卒 市川 安邦 尾高 陽一 木根 潤 弘水 黒須 朗雄 榊田 雄三 丹野 裕 古舘 和夫 吉田 耕一	昭和29年卒 牧 宏 牧野 迪正 山口 猛 渡邊 靖 吉川 和夫	昭和29年卒 石井 喜悦 石垣 重昭 井上 秀雄 尾崎 実 加藤 浩一郎 谷川 清 奈良 富雄 中嶋 貞夫 中村 百樹 藤波 篤郎 村松 俊作 八田 肇 米山 廣保 大内 蕃 高橋 久雄 廣橋 亮	昭和30年卒 加藤 五郎 金井 孝道 高野 俊彦 古川 新 本橋 久弥 植竹 和也 笠間 三男 小林 國平 近藤 練太郎	昭和31年卒 川口 國雄 小島 照美 小松原 彬 杉浦 允 鈴木 一郎 田中 宏之 田中 康博 高木 弦 役重 典之 橋本 圭右 米倉 久雄 飯田 安男 小池 久則 雁部 敬夫 竹林 信子 田畑 調友 矢野 弘子	昭和32年卒 阿久津 芳彦 網代 良太郎 朝生 孟 伊藤 道夫 石井 孝二	昭和33年卒 阿部 正明 丸山 義三 青山 功 青山 達也 五十嵐 輝行 稲田 欣一郎 大井 壽 奥野 士郎 加賀 勘之助 柏崎 敏郎 小林 脩一 才木 義夫 齋藤 二郎 須崎 節雄 高木 三郎 滝淵 幸二 玉井 滋夫 永井 滋 富士田 諄一郎 藤田 亘弘 箕浦 滋 宮森 隆志 青木 弘 神宮司 弘 原 幹夫	昭和34年卒 岩瀬 善則 牛込 力夫 児玉 五男 高橋 秀雄 玉置 憲三 藤森 信正 横倉 隆康 栗原 孝夫 安達 昭郎 青木 滋夫	昭和35年卒 大久保 保夫 笠井 啓也 梶原 康敬 黒木 妙子 金沢 成光 河合 哲次 小見川 健 酒井 孝次郎 定方 聰博 瀧澤 文男 難波 純一 西嶋 泰世 野島 秀次郎 南 一郎 谷田部 寛昭 山本 周治 吉岡 靖隆 米田 修一 渡邊 高章 遠藤 脩造 尾崎 武二 倉形 邦英 佐久間 恒和 斯波 義男 神宮司 弘 関口 勝 内藤 晴義 丸山 長資 宮本 實 小野 清人 村川 信子	昭和36年卒 青木 俊一郎 畔上 統雄 石井 四郎 石井 照明 宇賀治 正名 越智 健二 門井 守夫 飯戸 斌 河内 宗弘 木村 繁夫 北林 伸一 栗村 規雄 炭田 幸宏 高久 眞 崎下 昌道 高柳 裕臣 村越 英彦 矢本 暖郎 柳 弘来 横山 樹静 吉田 昌弘 佐藤 貞男 砂川 憲二 野村 友次
---	---	--	--	---	--	--	---	---	---	--	--

上野山 高正

堀 武

石井 孝二

青木 滋夫

野村 友次

中村 紀史	渡辺 久和	丸山 武紀	昭和52年卒	平成7年卒
小串 照宗	久保田 敏夫	昭和42年卒	井上 久	岡田 賢識
昭和37年卒	佐藤 良博	岡見 宏道	土岐 正史	谷合 哲行
伊地知 龍清	齊藤 博之	香取 省二	新国 禎倅	平成9年卒
伊藤 成利	鈴木 庸一	中井 忠男	深澤 豊史	浮谷 基彦
井上 靖治	瀬尾 宏	橋本 廣雄	昭和53年卒	酒井 佳恵
奥山 正之	竹石 肇	古阪 一昭	植松 一郎	林 秀憲
倉澤 守雄	武田 幸久	長田 義男	深津 誠	平成10年卒
小林 昭朗	中野 洪	佐藤 馨	吉田 光夫	伊掛 浩輝
駒井 俊雄	仲野 一次郎	高橋 秀雄	昭和54年卒	平成11年卒
銀林 博	野尻 義雄	富田 潤一	浅野 祥司	松田 弘幸
清水 大三	原 襄輔	能代田 順久	小笠原 幸道	平成12年卒
清水 翠	矢野 彰一郎	昭和43年卒	大野 正博	伊藤 徳高
杉崎 秀夫	山崎 彰	浅井 保雄	諸原 浩	平成13年卒
津崎 信隆	遊佐 勝見	新井 浩一	谷藤 善美	藤田 尚之
丸林 功	横田 力男	宇智田 俊一郎	昭和55年卒	平成14年卒
旭 重男	和田 高伸	海上 幸三	森 弘通	佐々木 俊介
石岡 龍右	渡辺 進作	進藤 宣詔	昭和56年卒	吉川 賢治
磯崎 昭徳	青木 匡	昭和44年卒	松島 浩	平成15年卒
長田 幹一	小屋原 英雄	花井 秀之	木村 文紀	佐々木 大輔
秋本 守夫	鈴木 良治	八幡 順一	昭和57年卒	山根 麻衣子
植木 庄左衛門	瀬尾 直朝	渡辺 光仁	佐藤 慎一	藤田 泰
児玉 義宏	田中 誠悦	昭和45年卒	昭和58年卒	平成16年卒
佐々木 賢明	高松 武生	柿澤 修	岩崎 好高	田代 哲也
堀 是治	寺山 洋子	小林 満	前川 雅昭	最上 尚行
徳永 喜八郎	中野 弘	田中 碩	昭和59年卒	瀧澤 慶子
昭和38年卒	富士 光男	滝戸 俊夫	清水 繁	後藤 裕幸
吉井 彰子	藤池 曠子	土田 久	昭和60年卒	平成19年卒
井野 二陸	舘 敏夫	永島 一男	鈴木 義弘	薄 舞子
生駒 二郎	昭和40年卒	宮内 和司	昭和61年卒	学科教職員
岩本 恒夫	稲葉 清彦	加村 尚喜	磯崎 勉	青山 忠
大村 俊晴	岩崎 紘一	齋藤 菊夫	小嶋 芳行	
木村 次雄	上野 公雄	昭和46年卒	萩原 俊紀	
小松 允	河村 勝弘	小谷 将彦	中西 剛	
栗田 公夫	竹森 徹	齊藤 政久	昭和62年卒	以上479名
酒井 誠一	向井 常雄	島津 学	加藤 慎次郎	
白鳥 照道	飯野 宏治	三宅 久利	栗田 直人	
竹内 栄多	笹子 謹一	昭和47年卒	勝又 雅子	
塚田 豊	武井 秀彦	齊藤 菊夫	松山 之則	
内藤 清剛	丹野 隆善	森 伸一	昭和63年卒	
中沢 隆夫	西脇 鉄雄	昭和48年卒	石井 睦子	
永田 正巳	幡野 匡彦	指田 高好	三井 宏	
原 正樹	廣田 才之	渡辺 明典	森田 孝節	
山口 重周	三谷 治郎	川津 義人	平成元年卒	
渡部 長幸	飯原 打越	坂口 信昭	磯崎 誠也	
長嶋 潜	昭和41年卒	関口 優紀	黒田 美和子	
白石 益郎	相見 光郎	秋久 俊博	栗田 雅子	
神保 富士男	楠 勝行	昭和49年卒	平成2年卒	
杉田 松生	佐藤 良和	小島 元昭	石川 恵子	
本村 貴弘	重田 勲次	澤口 孝志	橋本 徳子	
井口 朗	高桑 豊	昭和50年卒	菅野 元行	
鈴木 忠	塚田 悦造	上田 賢二	平成3年卒	
昭和39年卒	奈倉 正宣	上條 治夫	村原 伸	
片岡 康浩	藤池 誠治	関口 真理	平成4年卒	
金田 紘一	與田 正二郎	長井 一良	宮崎 裕子	
神谷 中	木村 勲	昭和51年卒	藤池 一誠	
亀村 轟	中田 博	梶 公一	平成6年卒	
	白竜 美津夫	杉山 文敏	佐藤 順一	

編集後記

今年は物質応用化学科(旧称 工業化学科)が創設されて70年になります。記念事業のことは既にご承知のことと思います。「工化時報」も新しくなってから24号を数えました。現状では年1回しか発行出来ませんが、学内の現況を会員の方々にお知らせして参りました。手元にある旧「工化時報」19・20号(共に昭和21年12月発行)は藁半紙に謄写版印刷の粗末なもので、紙の寄付があつてやっと発行できたとの記事があり、終戦前後の物の無い苦勞した時代を思い出しました。物の潤沢な今、更に充実した記事を心掛けます。皆様の一層のご支援をお願いします。

(工化時報編集委員 昭和20年9月卒 伊藤 和雄 記)

お知らせ

平成20年度の行事予定

- 5/17(土) 工化会総会(予定)
- 6/7(土) 物質応用化学科創設70周年記念会
- 7/19(土) 一日体験化学教室
- 8/2(土), 3(日) CST オープンキャンパス2008

連絡先

- ・工化会及び会費に関する問合せ→庶務(滝戸 TEL:03-3259-0800)
- ・住所変更に関する問合せ→会員(櫻川 TEL:03-3259-0802)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(秋久 TEL:03-3259-0806, FAX:03-3293-7572, E-mail:jihou@chem.cst.nihon-u.ac.jp)

広告募集

工化時報では会社広告及びクラス会・同窓会報告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

◎伊藤和雄, 永島一男, 小川 誠, 橋本徳子, 石黒香織,
秋久俊博, 谷川 実, 遠山岳史, 平野勝巳, 森田孝節

学生編集委員

M2 三浦義之

4年 須賀 徹, 宮原潤一

3年 石部奈美子, 竝木和彦, 平岡佐知子

2年 山下七重, 田中絵里, 辻村佳奈子, 内藤千裕, 中沢舞貴,
森川 純, 諸 明勲, 横家希

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>